

## 東海大学付属望星高等学校

## 同窓会会報

第34号



# かけがえのない 「今日」を大切に

校長 細野久一

「月は行く、二月は逃げる、三月は去る」

は、「亡き母がよく口にしていた言葉です。この言葉の後で、必ずといっていいほど、「時間の経つのは早いね」とつぶやいていました。

私は現在六十五歳です。過ぎてしまえば夢まぼろし、今思うにあつという間の六十五

年でした。人生は最初の頃はゆっくりしています。そのうち加速度がついて眼にも止まらぬ速さになり、急な坂をころげ落ちる石のように一日一日が過ぎていくのです。本当に一日一日が早く感じるのです。

私はこのように考えています。「早すぎる」というよりは、なきねばならぬことが多く、時間があつという間に経ってしまうのだ」と。昨日、そして今日から明日へと時は進むのですが、「明日に向かつて生きる」という意志を強く持つていれば、生きることの幸せを感じる、それが人である」と。

『手のひらを太陽に』という歌があります。一番の歌詞に「ぼくらはみんな生きている、生きているから悲しいんだ」とあります。この歌の作詞家やなせたかし氏は、「悲しむことができるのは生きているからなんだ。生き

ているからには傷つくことも多い。それを乗

りこえた時はうれしくなる。悲しみとよろこびはウラとオモテ」と言っています。悲しみがなければよろこびもありません。不幸な時にはじめて幸福のことがわかり、幸せを感じるのです。

幸せは「なる」ものではなく「感じる」ものです。私たちの人生は、二度と戻らない「今日」の積み重ねです。「〇〇記念日」などといった特別で大切な日もありますが、人生の大半を占めるのは普通の一日一日です。普通の一日、名もない一日にも、心を澄ませば感じる幸せがいつもいつまつています。「平凡な毎日を前向きに、自分らしく充実して生きることの中にこそ、幸せはある」と言えます。

幸せは「感じる」ものだと言われる所以です。昨年は、東日本大震災をはじめ災害に明け暮れた心の重い一年でした。自然是自らを傷つけながら、私たちに何を訴えようとしているのでしょうか。「さりげない普通の一日を普通に過ごせることの幸せを今ほど感じることはない」、今なお辛く厳しい日々を過ごしている被災地の人たちの言葉です。教えら

れさせられる言葉です。

本校は二〇〇九年度、三ヶ年計画による新生望星高等学校の基盤づくりをスタートしました。今年度はその完成年度です。

〇九年度：地下二階屋内体育施設改装  
一〇年度：一年次高校通信教育講座のオンデマンドでのインター

ネット配信

北海道校・静岡校・福岡校の生徒募集停止

一一年度：全年次高校通信教育講座のオンデマンドでのインター

ネット配信

地下一階改装

一二二年度：東京校・熊本校・技能連携校による新生望星高校スクール

静岡校は静岡分室として付属翔洋高校内に移設、技能

連携校のみ担当

本校は、通信制教育のバイオニアとして幾多の困難を乗り越え、半世紀の歴史を刻んできました。先人たちの思い、前向きな努力を受け継ぎ、私たちは新しい「望星」づくりに邁進します。

二〇一〇・一一年度、同窓会からは物心両面にわたり多大なご支援を賜りました。誠にありがとうございました。「望星」の誇り、財産は皆さんお一人お一人です。今後とも母校への力強い応援、ご支援をよろしくお願いします。

平成二十四年一月発行  
東海大学付属望星高等学校同窓会  
Tel 03(3467)8111  
発行人 金谷義孝

# 上を向いて歩こう



会長  
金谷義孝

昨年から今年の正月にかけて「上を向いて歩こう」の歌を沢山聞いた。これは3・1・1東日本大震災の応援歌でもあるからだろう。私はこの歌には、ほろ苦い思い出が有る。

昭和35年夏、当時小学5年生だった。11歳年の離れた兄が結婚して同居することになった。

自宅から124段の階段と1500mほど離れた兄の勤務先である長崎新聞社に、夕食の弁当を届けるのが、私の仕事となつた。その初日は貝柱のフライがオカツであった。小学5年生の頃はいくら食べても満たされず、欠食児童のようなもので、貝柱のフライなんてハイカラなものを初めて見た。これが私の鼻孔をくすぐり、留めなく唾液が溢れた。

弁当届けへは、よく歌いながら行つた。当時流行の「上を向いて歩こう」はスキップ交じりで明るく、帰つたら思い切り食べようと、期待と味の想像で、身も心も弾んでいた。

会社に到着して、第一声の兄の言葉が「そんな格好して来るな」だつた。「ありがとう」との言葉は勿論、期待していなかつたが、「そんな格好して来るな」は子供心に傷ついた。

その時の格好は下駄履きでぶかぶかのランニングシャツと短パンだつた。まさに映画「三丁目の夕日」の子供の格好だつたと思う。体が貧乏で、ごく普通の格好だつたと思う。帰りに歌つた「上を向いて歩こう」は悔し涙まじりで、悲しいメロディであつた。

この時、よし大きくなつたら金持ちになつてやる。お洒落もして、美味しいもの沢山食べてやる。と子供のたわいない夢ではあるが、悔しさと共に心の底に染みついた。

昭和39年5月、高校1年で中退し大阪を経由して上京した。家出同然で東京を目指したのはオリンピックを見る事もざることながら、成功するには東京が一番との思いが有つた。

銀座の街中のファッショնは男のズボンの裾は短く、女のスカートは長い、「みゆき族」が跋扈し、アイビールックも全盛となつていた。その連中とはすぐに仲良く同化し、そのまま銀座に住み着いた。身元保証人も無かつたが、右肩上がり経済で住み込みでの喫茶店やバーレはいくらでも仕事は有つた。ただ、不良の巣のような剣呑とした雰囲気に、なにか違和感を感じた。その1年後、17歳の時には、腕力と実行力で束ねた小さな喫茶店の店主を皮切りに、自分の理想と思える飲食店を目指して色々なタイプの店舗を拡大していくた。

店舗を広げるにあたり人手を集めには、飯は腹一杯食わせる。これだけでも当時は人が集まつた。正月には20人分のお節料理も作つた。こんな事いつ覚えたか自分でも記憶はない。

創意工夫とは面白いと胃袋と頭で納得した。このような事が様々なことで發揮される。

銀座松屋デパートの社員食堂喫茶室の委託経営を任せられた時の事だが、最初は3坪のカウンターだけが、昭和55年の終了間際は120坪まで拡大された。コーヒー1杯30円の売値で、毎日2000杯は販売した。この時も、より美味しいコーヒーを立てるため1ポンド(約450g)用のネルフィルターを手縫いして、450gの豆で50杯のコーヒーを立てる。

10g1杯が基本とされた時代だから、50円位であつたから1日2000杯も販売すると大変な利益だつた。

私自身は学歴も必要性を感じず、充実した生活だつた。長女誕生の頃に新聞にて望星高校の生徒募集をタイミングよく見て、これだと閃くものがあつた。そして間違いはなかつた。知らない事を知る喜びと、人情の機微、愛校心から始まり愛国心そして愛、種々のこと

を内木先生始め熱い先生達や友から学んだ。勉強する事の面白さや、松前重義先生の理念でもある「建学の精神」と生涯教育がしつかりと根付いた。

私は、まだやりたいことが沢山ある。15年前の脳梗塞から奇跡的な回復、還暦を過ぎてからの糖尿病による失明の危機。2日に1回は空手道場にて汗を流すが、医者は運動不足と頭を捻る。私自身は酒の飲みすぎと確信し震災の影響で材料の値上がりで断念した。売る側、買う側ともに手安くとの思いで、ジャンボフランクに決めた。だがこのひと品だけで気が取らぬのが事務局長の腹の内、一月に近く、肌寒くなるだろうと、とん汁を

仕事なので禁酒を実行できない悩みも有る。やりたい事、夢や希望は生きねば完成しない。そして前向き、上向きでなければ完成しない。こぼれそうな涙はバネになる。誰にも、今おかれている状況でも、夢を見る事もチャンスを掴むことができる。

私の今が有るのは、望星を卒業し、鍼灸マッサージに命を救われたからだ。この業界のリーダーの一人として鍼灸マッサージ師の地位の向上・経済の安定の実行の為の活動と続き、その母校に恩返しをするのも私の義務だ。

希望を星につなごう。皆も自分の夢を掴むために、上を向いて歩こう。

希望を星につなごう。皆も自分の夢を掴むために、上を向いて歩こう。

## 文化祭に思う

七期 長南友行

十月三十日第五十二回望星高校文化祭が開催された。

同窓会では今まで活動報告的な写真などの展示では何度も行つて来たが、さらに活動を理解していただこうと、昨年に続き模擬店出店を計画した。当初はイカ・ホタテの焼き物の匂いで誘い込む戦略だつたが、東日本大震災の影響で材料の値上がりで断念した。売る側、買う側ともに手安くとの思いで、ジャンボフランクに決めた。だがこのひと品だけでも気が取らぬのが事務局長の腹の内、一月に近く、肌寒くなるだろうと、とん汁を

(3)

テント、テーブル、焼き台、ガスなど一式を学校側に用意していただき設営。とん汁は前日に事務局長自からの準備となつた。店頭飾りは副会長のお手のもの、開店準備も整い、あとは売り子の掛け声を待つばかり。

店番をしていて思い出したことがある。

四十五年ほど前の二年生頃と思うが、大学の文化祭(代々木祭)でタルみこしを手作りして大学生といつしょに大学通り商店街を練



用意。それにはおにぎりが付物と都合三点セットにしてしまつた。しかし、在校生、教職員、父母会、他校生など合わせて数百人ほどの来場者に対し、十数店の屋台がひしめき、売り切れるか心配になり、当初予定より半減でバラ売りとなつた。



り歩いたことがあつた。次の年には教室の窓に暗幕を張つて暗くし、天井にミラーボールを吊り下げダンスホールにして社交場と化したなど。近年の文化祭とは違つて数店の模擬店のような店はあつたと思うがだいたいが写真、書道、手工芸品などの展示物が多かつたよう思う。今の華やかな文化祭から見ればずいぶん質素に思えるが、当時としては皆目いっぱい楽しんでいたと思う。



# 内木文英



東海大学付属望星高校  
名誉校長  
内木文英

## わが人生、そしてわが命「望星」

昭和三十年（一九五五年）頃、私は劇作家として生きるか、教員を続けるか迷っていた。

演劇雑誌に私の作品がとりあげられ、ようやく力を得てきただ学校教育と演劇の問題の中で、いつも私は中心にいた。テレビがはじまつてから、日曜日夜のテレビドラマに私の作品が取り上げられ好評だった。教育テレビを書かされ、たくさんの稿料を手にした。作家が自分の天職に違いないと思った。

その頃、東海大学の創設者松前重義先生が、私と顔を合わせたたびに、「富士山の頂上にアンテナを建て、そこからまだ開発されていない電

波（FM）を流し、教育を載せる。そういう学校を創りたい」と、私に向かって言い続けた。その学校が出来てからだ。それから俺は、俺の好きな道を生きようと心に決めた。

昭和三十四年、「望星高校」が、奇跡的に誕生した。その最初のスクーリングの朝、大学生の弟に背負われて登校したY君の姿に大きな衝撃を受けた。身体が小学生くらいの大きさなのだ。一番前の椅子に座つて、私のしゃべる言葉を一生懸命メモするのだ。

Y君の教育を放り出して、お前はテレビを書くのか。そんなにお金が欲しいのか。その晩、私は焼酎をたくさん飲み、「俺は望星といつしょに生きよう。有名にならなくとも、金持ちにならなくてもいい。この学校が俺の命だ。」

そう思ったのだ。その思いを、私は今でも忘れてはいない。

## 働く幸せ

### 二十七期 針替幸子

昨年の秋講演会に出席しました。演題は

「働く幸せ」講師は日本理化学工業株会長の大山泰弘氏です。主にチョークを作っている会社ですが、特色は社員の7割を知的障害者が占めていることです。

工場の敷地内には「働く幸せ像」があり次のように言葉が刻まれています。  
人に愛されること。人にほめられること。人の役にたつこと。人から必要とされることが、

ト。

「上手にできたね」「頑張ったね」「あなたがいないと皆が困る」「ありがとう」そして必要とされる喜び、働く喜びは障害者でも健常者でも変わりはないと思います。

創業者の父親の跡をついで3年目、高度経済成長の始まりの昭和35年、26歳の時の出来事です。

東京都立青鳥養護学校の先生が訪ねてきて、「うちの生徒の就職を是非お願ひしたいのですが」懇願する先生に「それは無理な相談ですよ」しかし数日後先生は再び現れ、訴える

うすれば一生働くということを知らずに終わってしまうのです」「それなら2週間程度なら」という条件で体験をしてもらう事になったのですが、2人の女の子はお昼休みのベルがなっても手を止めようとしないので「もうお昼休みだよ」と肩を叩かれてやつと気づくほど熱心に働きました。

実習の最後の日、チームの代表格の社員がやつて来て「私達が面倒をみますからあの子達を雇つてあげてください。現場の人たち皆の意見です」入院している父親に相談すると「知的障害者が働く会社が1つぐらい日本にあつてもいいだろ」と背中を押してくれました。

また社員達の言葉に嘘はなく2人を可愛がりほんとうによく面倒をみてくれました。仕事は愛までも与えてくれます。相手を理解し思いやり、励ましながら目標に向かって力を合わせる中から愛し愛される関係が生まれるものだと思います。

経営者も正社員も派遣社員も、男性も女性も老いも若きも、そして障害者も分け隔てなく、皆が働く幸せを実感できる社会にと結んでいます、それが大山氏の理念だと思います。

昭和35年採用の女の子は無事定年を迎え退職されました。心からおめでとう!



## 連合同窓会に参加して

2期 清水庄司

学校便り

9月17・18日の両日、静岡の翔洋高校

同窓会を幹事校とする連合同窓会の総会が下田市で開催された。

下田温泉と云えば、海岸沿いのイメージ、グーグルで下田市相玉と検索、意外にも野中の一軒家である、静かな夜が過ぎ去る。

三島駅を10時に出発、一路伊豆半島西海

岸を下田に向かつてバスは走る。

土肥金山の観光坑内を見学、人形で再現された往時を偲び、資料館では、ギネス認定の250kgの世界一の金塊が展示されて居り、その大きさにビックリ。

堂ヶ島海岸では、波で浸食されて、変化に富んだ海岸線、天井の開いた天窓洞窟の上面から、洞窟内を通行する観光船を覗き込み、天然の妙に心奪われる。

松崎では、「長七美術館」では、江戸の左官

職人、伊豆の長七は、絵画を学び、漆喰壁に、絵筆を鎌に替えて描かれた、絵が展示されていた。虫眼鏡で繊細な鎌削(こてさばき)の技を鑑賞した。惜しむらくは、作品の大半は壁画故に、建造物の喪失と共に失われた事だ。

宿泊地は、ホテルの方の話では、市街地迄車で二〇分程の一軒家で、静かな場所で、寛ぐことが出来る場所であった。

滞りなく連合同窓会の総会は終了した。

総会後の懇談会では、各同窓会の参加者紹介の折、望星のAさんが、今日が誕生日との紹介があり、金谷会長から送られたバースデーケーキのロウソクの吹き消しが披露されるハプニングがあった。

二日目

下田市街地に出て、開国時、日米和親条約・下田条約が締結された、了仙寺。總領事ハ

リスに仕えた、「お吉」の菩提寺である。宝福寺の見学を行った。いつの世でも、時代の荒波に揉まれ、翻弄される方が居られるのは世の常か?

バスは下田街道を一路三島駅には向かう、天城超えをして、淨蓮の滝にて昼食、滝迄の細道を下つて行つて、日本の滝百選の一つに選ばれた、滝を観光した。

休日で道路の混雑が予想されて、渋滞に巻き込まれて、九州・北海道からの参加者が、羽田からの航空機に乗り遅れない様早めに、出発した。無事渋滞に巻き込まれる事なく早く三島駅に着くことが出来た。

事前の天気予報では、雨模様だったが、時折りの小雨のたいした降りではなく、無事日程をこなす事が出来ました。次回、熊本での

再会を約束して解散した。

翔洋高の同窓会の方々のご尽力に感謝して家路に向かつた。

一つの時代が終わったと言つていいかもしれない。2011年7月、ラジオ媒体とした望星高校の授業が終わつたからである。そこで、今回は長年この仕事に携わつてこられた技術者である田中晶さんにFMラジオにまつわる話を書いてもらいました。

松前重義と「カーナビゲーション」

東海大学付属望星高等学校  
放送技術技師 田 中 晶

「FMラジオが生み出したカーナビ技術」  
2010年の晚秋 代々木校舎での勤務を終え、最寄駅に向かう途中、ふとした光景が眼に入った。駅までの道のりは、渋滞の名所「環状6号線・通称山手通り」に面している。

連なるクルマの室内には、ほぼ全車にカーナビのディスプレイが明るく輝いていた。

カーナビに利用されるGPS(グローバル・ポジショニング・システム)は、地球を周回する衛星電波を利用して位置捕捉システムである。本来、アメリカの軍事技術の応用であり、航空機や艦船の正確な位置を知るために作られたハイテク機器である。

確かに、地図上に自車の位置が表示されることで、知らない道でも安心して運転することができるようになつた。しかし位置の捕捉機能だけで、カーナビが普及しただろうか。



日本のカーナビが優れているのは、VICSという渋滞表示機能を搭載したことだ。自車の位置をGPSで捕捉し、VICSにより進行方向の混雑状況を地図上に表示する。これが技術立国日本の凄いところなのである。

現在、VICSの情報伝達手段には、3つのメディアが利用されている。

①FM電波による広域道路情報。②電波ビーコンによる走行中の高速道路情報。③光ビーコンによる局所地域情報。この3つのメディアにより、刻々と変化する渋滞状況や道路情報が、走行する自動車のカーナビ端末へと伝えられるしくみだ。

最も多く利用されているのがFM電波を利用した広域道路情報の提供で、基幹システムとして、松前重義博士のFM多重思想が基本となっている。言いかえれば、松前博士のFMマルチキャストが、今日のカーナビ普及を促進したのである。

## II「松前博士とFM多重放送」

松前博士は、1959年に教育の機会均等の目的で、世界初・放送を利用した通信教育を発案し、現在のFM東京の前身、超短波放送実用化試験局「FM東海」を設立した。翌年4月にFMラジオを利用した通信制の高等学校「望星高等学校」が生まれる。通信教育にFM放送を利用するにあたり、当初から無装荷ケーブル理論に通じる多重化構想を発案していた。FMマルチキャストは、FM電波の有効活用。多重化を示し、左

右のステレオ音声に加えて、もうひとつ別の情報を同時に放送する技術である。

まだインターネットもパソコンも登場していない時代に、簡単な双方向の機能を研究し、電波の隙間（サブ領域）に簡単な信号を乗せてることで、講義内容に受講者が即座に反応できる「自動回答システム」も開発した。

音声によるFM多重放送は、SCA（サブキャリア放送）と呼ばれ、アメリカや欧州では、メインの放送と同時にBGMや盲人向け専用プログラムをオンエアしている。

日本におけるSCA放送は、昭和50年代に盛んに研究されていた。この理由はFM

東海の意志を引き継いだFM東京が、ステレオ商業放送と「高校通信教育講座」の両立をめざして、サブチャンネルの活用を真剣に検討していたためである。当時のSCA計画は、メインのステレオ放送とサブ音声のクロストーク（漏話）が多く、郵政省（現総務省）から認可を得ることができなかつた。

## III「SCAのデジタル化」

これから約10年の月日を経た平成元年、デジタル技術の進歩が思いもよらぬ形でSCA放送を世に送り出した。

昭和63年、郵政省は1県1局の全国FM民放化を達成し、かねてから要望の多い首都圏のFM多局化に乗り出していた。

ここで問題となるのが、平日の夕方、ゴールデンタイムに放送されていた「高校通信教育講座」の存在である。都心近郊のライバル局や、首都圏2局目のFM局の登場は、FM東

京の死活問題にもなりかねない。

そこでFM東京は、NHK技研の協力を得て、デジタル符号化（ADPCM）によるFM

VICSはカーナビの普及に大きく貢献した。しかし、松前博士のFMマルチキャスト思想がなければ広域への伝達手段がなく、VICSの登場は大きく遅れをとつたかもしれない。

## IV「FMラジオからインターネットへ、進化を続ける教育システム」

放送を利用して通信教育を行う東海大学付属望星高等学校は、創立50周年を迎えた。

昭和34年、代々木校舎2号館のアンテナから放送された「教育のためのFM電波」は、0kmの通信衛星に引き継がれた。

FMからFM多重放送・衛星デジタルラジオに権をつなぎ続けた「高校通信教育講座」。2011年7月、アナログテレビ放送の終了とともにラジオ講座の歴史に幕を閉じた。

東海大学付属望星高等学校は、2010年4月・パソコンとインターネットを利用したオンライン・ストリーミングによる放送講座を実施。音声・文字・図形・映像を利用して、教員の表情まで伝えるコンテンツにより、通信教育の可能性を大きく広げている。



## 望星高校同窓会事務局報告



事務局長  
寺林勝実

な事業の歩みを進め、今日的な意義ある事業の推進に、不足がちな同窓役員と共に協力し、あい邁進しています。

六回の参加をしています。また、母校の記念行事や、通常の行事に於いても、現在の同窓会が出来る、年間予算規模の範囲での僅かな貢献であっても、継続的貢献を考え続けています。

いま、同窓会は一昨年秋から、母校の文化祭に模擬店の出店を行い、母校や同窓会担当の先生からも、喜ばれ、期待されています。一昨年の出し物は、山県名物「玉蒟蒻」と洋菓子の販売、昨年はとん汁とお結び、「ビックフランク焼き」と大盛況でした。模擬店の販売金は継続的に、母校へ寄与されますが、在校生達が文化祭に使用する、器材等に反映される事でしょう。この事業は今年も続けて行います。

望星高校同窓会は此の様な母校に有つて、先人達からの既存の同窓集団を受け継ぎ、格式ある、母校と会員との「絆」を中継し、会員の「帰属」の核としての同窓を守り続け、存在し続ける使命を受けて、それを全うする為の責任を感じつつ、現行を維持し続けています。其の役割と活動の証として、基本的な同窓の「絆」を第一に、会員が母校に抱く「寄る辺」に対して、その機能を果たす、総会や懇親会の維持継続から、名簿の整備や情報を提供する会報の発行と継続等々、その責任を果たす努力を続けています。

こうして、同窓会は基本的責任と基幹的使命を自覚しつつ、これまでの既存の同窓集団から、新たな時代の流れを感じ取り、その時代に相応しい姿を自覚検討する事で、明日への事業活動に緩やかではあるが、然し、確かに



## 第四十九回望星高等学校 同窓会のご案内

初夏のさわやかな風が木々の緑と戯れる頃となりました。

そして今年も望星同窓会の総会時期をむかえます。

同窓会は年代の相違や職域の違いはあっても、母校に寄せる帰属意識は同じはずです。ここらで学生時代に立ち返り、思い出を語りあいましょう。

同窓会は年齢の相違や職域の違いはあっても、母校に寄せる帰属意識は同じはずです。ここらで学生時代に立ち返り、思い出を語りあいましょう。懐かしい旧師、旧友が貴方を温かく迎えてくれる事でしょう。

尚、ご出席出来ない方もハガキにて、近況をお知らせください。

### 記

一、日時 平成二十四年六月三日(日)

午後二時より懇親会

二、場所 東海大学付属望星高等学校

総会 望星高校二階教室  
懇親会 東海大学四号館

二階Yカフェ

### 三、会費

今年度卒業生 三千円  
ご夫婦での参加 二千円

五千円



未来会員との、多彩で伸び伸びとした関わりを持つ事が目的で、今年は同窓会「名入りのパーク」を、全員が着用、出し物も計画的な模擬店を開催する予定です。

同窓会は、過去と現在、そして未来が同時に一体となる、唯一開かれた集団です。

本年は、第四十九回総会で、新入会員を迎えての総会、文化祭に、是非ご出席ください。

計 報	
東海大学付属望星高等学校(恩師)	鈴木敏幸先生が永眠されました。
ご命日・平成二十三年三月十日	(三五二〇二五)
埼玉県和光市新倉一三十一三	電話 ○四八一四六五一六三五八
同窓会会員の高橋健様が 永眠されました。	ご命日・平成二十三年四月十八日 (三五一一二三)
東海大学付属望星高等学校(恩師) 坂井安雄先生が永眠されました。	ご命日・平成二十三年五月十五日 (三五二〇一〇〇二)
東京都清瀬市旭が丘一一二一八 電話 ○四七一六二一八六六三	東海大学付属望星高等学校(恩師) 坂井安雄先生が永眠されました。
三人の訃報に対しまして心から、 ご冥福をお祈り申し上げます。	ご命日・平成二十三年五月十五日 (三五二〇一九三一四五〇八)

望星高校同窓会ホームページアドレスのURL案内  
<http://www007.upp.sonet.ne.jp/yumidasu/>



## 平成22年度 会計決算報告

東海大学付属望星高等学校同窓会

平成23年 6月 5日

収 入		支 出	
前期 緑 越 金	4,534,697 円	連合 関係 費	180,000 円
新会員入会金	1,197,000	生徒会関係費	55,600
新会員年会費	435,000	通 信 費	603,862
総会時年会費	14,000	会 報 費	446,250
総会時寄付金	12,000	事 務 局 費	65,044
総会時50周年寄付金	5,000	總 会 費	113,531
局振込50周年寄付金	273,000	印 刷 費	200,550
局振込年会費	243,000	交 通 費	98,800
局振込寄付金	131,000	会 議 費	15,136
立替金(パインダー)	196,200	卒業記念品費	391,833
銀行振込年会費	2,000	支 部 活 動 費	76,000
雑収入(模擬店売上)	7,890	涉 外 費	24,460
利 子・利 息	1,819	機 器 整 備 費	27,450
		母校施設・整備等被借金	1,000,000
		(小 計)	3,298,516
		緑 越 金	3,754,090
合 計	7,052,606 円	合 計	7,052,606 円
次期(平成23年度)	緑越金 3,754,090円		

## 平成23年度 予算案

東海大学付属望星高等学校同窓会

平成23年 6月 5日

収 入		支 出	
前期 緑 越 金	3,754,090 円	連合 関係 費	190,000 円
新会員入会金	1,095,000	生徒会関係費	80,000
新会員年会費	379,000	通 信 費	550,000
局振込年会費	300,000	会 報 費	350,000
利 子・利 息	2,000	事 務 局 費	80,000
		總 会 費	130,000
		印 刷 費	180,000
		交 通 費	135,000
		会 議 費	25,000
		卒業記念品費	390,000
		支 部 活 動 費	69,000
		涉 外 費	20,000
		機 器 整 備 費	10,000
		望星高校50周年記念 母校設備整備等援助金	280,890
		(小 計)	2,489,890
		緑 越 金	3,040,200
合 計	5,530,090 円	合 計	5,530,090 円

## 平成23年度 役員選出

常任顧問	下倉 良次( 5期 )
会長	金谷 義孝( 14期 )
副会長	塗谷 憲康( 6期 ) 原澤 純一( 9期 ) … 各支部同窓会支部長
書記	駒崎 美帆( 28期 ) 山川 健人( 46期 )
会計	(主任)長南 友行( 7期 ) 柳 麻紀( 34期 )
事務局長	寺林 勝實( 29期 )
事務局次長	須永 英典( 38期 ) 武藤 夏美( 46期 ) 小泉 舞( 44期 ) 竹内 仁( 19期 )
幹部候補プロジェクト	大竹吉春( 25期 ) 斎田幸彦( 46期 ) 石田ひかり( 46期 ) 鈴木香織( 46期 ) 松本美怜( 46期 )
幹部候補プロジェクト	川元哲也( 46期 ) 西村龍介( 46期 ) 鈴木智絵( 46期 ) 鳴海亜矢( 46期 )
監査役	清水 庄司( 2期 ) 針替 幸子( 27期 )
広報担当	時田 早穂( 39期 ) 鈴木 広和( 42期 )
新規会員プロジェクト	(47期)土屋知義 東史奈 高橋弥矢野 伊藤信舞 井出壮介
新規会員プロジェクト	山名瑞季 有川真帆 原田麻里子 廣田仁美 山岸郁實

上記の決算、厳正なる監査の結果、相違無い事を認めます。

平成23年6月5日

監査役 清水 庄司( 2期 ) 針替 幸子( 27期 )

## 平成22年度総会・懇親会収支決算報告

平成22年5月30日 望星高校に於いて

収 入	支 出
会費 114,000円	飲食費他 227,373円
( 総会費より負担 ) 113,531円	